

寄生虫(クドア・セブテンプンクタータ)に対するリスク管理に必要な技術開発

研究期間	平成 24 年度～平成 26 年度
課題番号	2403
研究実施機関	クドアのリスク管理技術開発共同研究機関 ・(独)水産総合研究センター ・(国)東京大学大学院農学生命科学研究科 ・愛媛県農林水産研究所 ・大分県農林水産研究指導センター
研究概要	2011 年、薬事・食品衛生審議会において、生鮮食品による病因不明の有症事例について、ヒラメ寄生虫のクドア・セブテンプンクタータの関与が示唆されました。また今後の課題として、ヒラメの養殖段階でのクドア保有稚魚の排除、飼育環境の清浄化、養殖場における出荷前のモニタリング検査等の対策が必要であるとされたところです。 そのため、ヒラメの種苗生産・養殖施設において、クドア・セブテンプンクタータの生活環や感染経路を解明し、飼育方法、宿主である環形動物の除去、供給水の殺菌等の効果的な感染防除策を開発するほか、ヒラメ成魚の検査法の改良、ヒラメ稚魚での検査法の開発、ヒラメの鮮度を落とさないための冷蔵によるクドア失活法を開発するための研究を実施しました。
研究成果の概要	クドアの感染環については、一部の環形動物や海水からクドア遺伝子を検出し、クドアの感染時期やヒラメのサイズによる感染の違いについて明らかにしました。 また、ヒラメの種苗生産・養殖施設等でのクドア感染防除策として飼育水を砂ろ過と紫外線照射で処理する感染防除法を確立しました。さらに、感染したヒラメの検査方法として、感染 2 週目以降には心臓、筋肉及び血液からクドア遺伝子を検出できることを明らかにするとともに、養殖中又は出荷時にヒラメを殺さず検査する方法として、注射針を用いて魚体から筋肉を採取し、検鏡検査する方法を開発しました。 商品価値を低下させずにクドアを冷蔵等により失活させる処理方法として、急速冷凍し、貯蔵、解凍の条件を検討し、商品として受容される可能性が高い処理方法を開発しました。 養殖ヒラメ以外の魚種におけるクドアの感染状況の実態調査を行いました。

(注)研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載